

平成26年度 北九州工業高等専門学校 年度計画及び実績報告

| 国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画 | 北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画 | 北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告 |
|--|---|---|
| <p>1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保</p> <p>① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などへの広報活動を行い、国立高等専門学校（以下「高専」という）への理解を促進するとともに、メディア等を通じ広く社会に向けて高専のPR活動を行う。</p> | <p>1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保</p> <p>○地域中学校長会や中学校PTAなどへの広報活動を行う。</p> | <p>○北九州市内中学校校長会において、改組チラシを配布し、本科の改組について説明を行った。</p> <p>○行橋市立中学校2校のPTA、若松区の小中高PTA母の会に学内視察を実施した。また工業高校進学コース1年生による見学を行った。施設見学では、主に授業・実験の様子を教室の中に入り見学した。</p> |
| <p>② 各高専における入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等の取組について調査し、その結果を共有する。</p> <p>また、高専を卒業し産業界等で活躍する女性の情報等を盛り込んだ女子中学生向けのパンフレットの利活用を行うとともに、各高専における女子中学生対象の取組状況を調査し、その結果を共有する。</p> | <p>○中学校教員や学習塾講師を対象にした入試説明会、中学校訪問、近隣高専との合同入試説明会を継続して実施する。（女子中学生向けパンフレット等の利活用を含む）</p> <p>○オープンキャンパス、出前授業、公開講座の募集方法や実施内容を検討し、志願者確保に向けた継続的な取組みを行う。</p> <p>○本校で行う各種説明会等においてアンケートを実施し、そのデータを調査・分析し教職員で情報共有する。</p> | <p>○平成27年度からの改組に伴う広報を福岡県内及び県外の近隣市町村へ広報紙（リーフレット）を配布し改組の周知を行った。（7月14日）</p> <p>○学校説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月25日：北九州市内及び近隣市町村の中学校教諭を対象とした説明会（出席者は昨年度と同程度） ・9月12日：北九州市内及び近隣の学習塾を対象とした説明会（出席者は昨年度よりやや増加） ・9月27日：福岡3高専合同で福岡市内及びその周辺中学校の中学生、保護者、教諭を対象とした説明会 ・各中学校からの依頼により、本校教員を説明会に派遣（21件） <p>上記学校説明会では、本校の説明に加え、北九州高専にない学科の紹介、ロボコン等各種コンテストの実施等全国51高専の一体感等を示し、全国から中学生に熱い視線を送っている事を強調説明した。</p> <p>○中学校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市内及び近隣の市町村の160校超の中学校へ本校助教以上の教員が訪問し、北九州高専の説明及び「高専」について周知を行った。さらに、入試関連情報の提供と地域の情報収集を行った。 <p>その他、受験にあたり個人的な学校見学の申し出や、施設見学・課外活動体験等の対応を行った。</p> <p>○オープンキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業を中心とする夏季オープンキャンパスを8月30日に実施し、636名の参加があった。 ・秋季オープンキャンパスを10月11日・12日に実施し、577名の参加者があった。また、保護者・中学校教員を対象とした入試懇談会も実施し27年度からの改組について説明した。 ・オープンキャンパス時に、高専女子学生と女子中学生・保護者との懇談会を実施した。 ・オープンキャンパス関連情報をWebサイトに適宜更新の上掲載した。 <p>○秋季オープンキャンパスでは「在校生による高専紹介・質問コーナー」、寮生会役員による寮の紹介を行った。また、学生会が作成した高専学生の年間行事等を紹介するビデオを上映し参加者に学生生活について周知した。</p> <p>○出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市内の中学校からの依頼により出前授業を実施した。（3校） <p>○学校見学の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月17日：福岡県行橋市立泉中学校PTA約48名の保護者の訪問があった。 ・10月2日：北九州市若松区の若松母の会から本校を見学したい旨の申し出があり、中学生の保護者30名の訪問があった。 ・11月7日：福岡県立福岡工業高等学校工業進学コースの生徒40名、教員2名の訪問があった。 <p>○北九州高専版の「高専女子百科」の制作し、秋季オープンキャンパスで配付した。</p> <p>○夏季オープンキャンパスで実施したアンケートを集計・分析した結果を教職員へ周知し、情報の共有を図った。</p> |
| <p>③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各高専での利活用状況調査等を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。</p> | <p>○ポスター、パンフレット、リーフレット、マスコミ、ホームページ、グラウンド横の掲示板などを活用して、学校活動の広報を強化する。</p> | <p>○受講生の集まらない公開講座の内容と募集方法を検討し実施する。リーフレットの内容を見直し文字数を減らした。Webから応募できるようにし、また応募フォームをリーフレットに付けて記入後簡単に申込みできるようにした。</p> <p>○夏の公開講座では、中学生ばかりでなく小学生をも対象とした講座を開講し、近隣の小学校に直接向いてチラシを配布した。また、北九州市内の小中学校に公開講座のチラシの送付や小倉北区及び小倉南区の区役所に出向き、市民センターでの掲示依頼も行った。</p> <p>○ポスター、チラシ、マスコミ、ホームページを十分に活用した。</p> <p>○グラウンド側の掲示板を利用して、本校学生・近隣住民に対して、学生の表彰、学校行事の案内ポスターなどをその都度作成し、掲示した。</p> <p>○学生寮を紹介するチラシを作成し、秋のオープンキャンパスの来校者に配布した。</p> <p>○高専機構作成のDVDは適宜利用している。</p> <p>○北九州市内の中学校にポスター、リーフレットの送付を行った。</p> <p>○テレビで特集された学校紹介のDVDを秋のオープンキャンパス会場内で放映し、来場者に学校活動の一部をアピールした。</p> |
| <p>④ 高専教育にふさわしい人材を的確に選抜できるよう、中学校教育の内容を十分に踏まえたうえで良質な試験問題を作成し、なおかつ正確で公正な試験を実施する。また、必要に応じ入学選抜方法の改善について検討する。</p> | <p>○アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）について、「求める学生像」と「入学者選抜の基本方針」を分離掲載し、受験者への的確な周知を図る。</p> <p>○「入学者選抜の基本方針」の適切な選抜方法について、これまでの検討結果をもとに審議する。</p> | <p>○改組に伴い出願提出書類等の様式を検討し、募集要項にアドミッションポリシーとして、「北九州高専が求める学生像」と「入学者選抜の基本方針」を区別して記載しわかりやすいように変更した。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|---|--|--|
| <p>⑤ 各高専・学科における学力水準の維持及び女子学生等の受入れを推進するための取組及び志願者確保のための取組を調査し、その事例を各高専に周知する。</p> | <p>○入学志願者に関わる調査、入試選抜方法に関わる成績データ等の分析について、教育コーディネーターの協力を得た継続検討を行う。 ○女子中学生向けの各種パンフレットを活用、オープンキャンパス時の懇談会実施など、女子学生志願者確保に向けた継続的取組を行う。 ○女子寮における学習環境の改善のため、現在作法室として設置されている部屋の、学習室としての整備を検討する。 ○図書館女子トイレの改修を計画する。</p> | <p>○女子学生志願者の確保 ・秋季オープンキャンパス開催時に女子学生コーナーを設け、女子中学生を対象に在学女子学生が高専生活についての質問や相談に答えるとともに、女子中学生へモノづくり体験をしてもらった。（参加者は、女子中学生57名、保護者20名） また、女子学生寮の説明を女子学生が実施した。 ・卒業後の活躍、大学編入、大学院進学を視野に入れながら中学校側にPR活動を行った。 ○オープンキャンパス実行委員会を中心に、オープンキャンパスを計画、実施した。また、Webサイトの充実を図った。 ○KCTガールズを結成し、北九州高専版の「高専女子百科Jr」2014年版を制作、KCTガールズのHPを制作中、女子志願者増加に向けたPRに利用している。 また、機構作成の女子中学生向けパンフレット（キラキラ高専ガールズ）をオープンキャンパス・高専祭など、中学生や保護者が来校するときに配布した。 ○作法室内の不要品の廃棄等を行い、寮生会のリーダー研修において、作法室を学習室にするための方策やアイデアについて話し合った。 ○熊本高専熊本キャンパスの女子学生と交流会を実施し、自らの学生生活充実と女子学生確保に向けた情報交換を行っている。 ○公開講座で女子中学生を対象にしたものづくり体験講座を開講、女子在校生・教員とのふれあいを通して高専をPRした。 ○オープンキャンパスでは女子学生志願者と在校生・教員との入試懇談会を実施。女子入学生に、入学前にオリエンテーションを実施した。</p> |
| <p>(2) 教育課程の編成等 ①-1 産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、本法人本部がイニシアティブを取って、51校の国立高等専門学校の配置の在り方の見直しや学科再編、専攻科の充実等を検討する。またその際、個々の高等専門学校の地域の特性を踏まえ、教育研究の個性化、活性化、高度化がより一層進展するよう配慮する。</p> | <p>(2) 教育課程の編成等 ○産業界の人材需要や学生のニーズ等を踏まえ、本科の高度化・再編ならびに専攻科の高度化・再編を実現する。</p> | <p>○平成27年度から、本科・専攻科の高度化・再編に伴い、本科5学科から1学科へ、専攻科3専攻から1専攻へ、文科省等との協議を終え、移行予定である。 ○継続している地域企業との共同教育（専攻科特論II, III）の他、高専機構「企業技術者等活用プログラム」による産学連携共同教育の採択を受け、専攻科での「先端的低炭素化技術特論（専攻科特論IV）」を行っている。 ○地元企業・他大学・市との連携による、ロボット産業と連携した企業の現役技術者による育成講座を継続開催した。</p> |
| <p>①-2 学科や専攻科の改組について、社会・産業・地域ニーズ等の把握に当たっては、法人本部がイニシアティブを取ってニーズ把握の統一的な手法を示すよう検討する。</p> | <p>○本科の高度化・再編に当たり、低学年での共通教育、上学年での専門教育の実施体制を構築する。 ○専攻科の高度化・再編に当たり、教育組織と教育内容を構築する。 ○各種ニーズを適切に把握する組織体制を構築する。</p> | <p>○平成27年度から、本科・専攻科の高度化・再編に伴い、本科5学科から1学科へ、専攻科3専攻から1専攻へ、文科省等との協議を終え、移行予定であり、新たな教育組織と教育内容を導入予定である。</p> |
| <p>② 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各高専共通の「学習到達度試験」を実施する。また、その試験結果について公表を行う。「英語」については、各高専におけるTOEICの活用状況を調査し、その事例を各高専に周知する。</p> | <p>○共通分野科目に関する学科間の協力体制について、学習到達度試験や実力テスト（本校独自に4月と9月に実施）の結果を教育にフィードバックさせ、学力とモチベーションの向上に活用する。 ○技術者として必要となる英語力の伸長を図る。 ○本校における、これまで実施してきたTOEIC関連教育の効果を確認する。</p> | <p>○複数学科に存在する類似科目について、平成23年度から継続して担当教員で協力した授業を実施している。 ○専攻科では、外国人講師による英語による専門授業を実施している。一部の専攻科科目では、部分的に英語による授業を試みている。 ○理科の科目間連絡会議で協議した結果、学習到達度試験についての学生への周知が不足していることの解決から再取組を始めることとして、今年は到達度試験の過去問題を物理関係教科の課題とすることとした。次年度以降は、試験結果も科目の成績評価の一部に取り込むこととし、学習へのモチベーションアップの材料とする。2年生に対しては、現行の実力テストに加え、物理教科においても年2回の実力テスト同様のテストを導入し、物理科目の評価の一部と学習のモチベーションアップを図った。</p> |
| <p>③ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。</p> | <p>○授業アンケートに加え、各学年で学生自らの達成度を計るアンケートの実施を検討する。</p> | <p>○達成度点検のためのアンケートについてFD専門部会で検討し、年度内に実施する。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|--|---|--|
| <p>④ 公立高等専門学校と協力して、学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストを実施する。</p> | <p>○高専体育大会、高校体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン、CADコン、ブレコンなどへの参加に対して支援する。 ○九州沖縄地区高専体育大会での本校担当競技について、円滑に開催する。 ○平成27年度全国高専体育大会の本校担当競技の開催準備を進める。</p> | <p>○高専体育大会、高校体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン、CADコン、ブレコン等への参加者に対して旅費等を支援した。 ○九州沖縄地区高専体育大会での本校担当競技について、円滑に開催した。 ○平成27年度全国高専体育大会の本校担当競技の開催準備を進めている。</p> |
| <p>⑤ 各高専におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動のうち、特色ある取組およびコンテンツについては総合データベースを活用して各高専に周知する。</p> | <p>○本科において、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加等、学生の多様な学習や課外活動への取組みを継続的に検討する。</p> | <p>○北九州市子ども家庭局青少年課青少年ボランティアステーション主催の「夏休みボランティア体験」を学内に周知し、今年も参加している。 ○本科において、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加等、学生の多様な学習や課外活動への取組みを継続的に検討している。</p> |
| <p>(3) 優れた教員の確保 ① 各高専の教員の選考方法及び採用状況を踏まえ、高専における多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。</p> | <p>(3) 優れた教員の確保 ○優れた教員を確保するため、多様な背景と経験を持つ者の採用を図る。</p> | <p>○一般科目理科教員の欠員補充にあたっては、門戸を広く公募している。このため、女性からも含め、幅広い年齢層、専門分野、学歴教育研究歴の応募者が多数あった。現在、2次選考が進行中である。</p> |
| <p>② 長岡・豊橋両技術科学大学との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を実施する。また、大学、企業等との任期を付した人事交流を実施する。</p> | <p>○人事交流によるメリットを検証し、他高専・技科大との人事交流を引続き推進する。</p> | <p>○一般科目においては、昨年度の数学教員の交流派遣に続き、今年度は社会科教員の人事交流を受け入れた。次年度も英語教員の受け入れを行う予定であり、継続して人事交流が活かされている。また、以前高専間人事交流で受け入れた理科教員とは、現在も教育研究での協力関係が継続して持たれている。 ○平成26年度、他高専との人事交流として、1名の派遣、1名の受入を行っている。</p> |
| <p>③ 各高専に対して、専門科目（理系の一般科目を含む）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用の促進を図り、専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%をそれぞれ下回らないようにする。</p> | <p>○専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者の割合が専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%をそれぞれ下回らないようにする。</p> | <p>○専門科目については、博士学位取得者若しくは取得予定者を公募条件とし、一般科目については、修士以上の学位取得者を公募条件としている。</p> |
| <p>④ 女性教員の積極的な採用・登用を推進するとともに、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。</p> | <p>○女性教職員に配慮した施設の整備を推進する。 ○教員公募に際し、女性のみ公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を一層進める。 ○高専教員の公募拡大を図るため、高専において、高専の教員職の就業体験（インターンシップ）受入事業を企画・実施する。</p> | <p>○女性教員採用に向け、5月に機構本部が主催した国立高専教員募集合同説明会に参加し、説明を行った。（電子制御工学科） ○女性限定の採用募集を行い、准教授採用を決定した。（電子制御工学科） ○教員職のインターンシップ受入を企画し公募したが、申し込みはなかった。（電子制御工学科） ○一般科目理科の公募にあたっては、女性優先を謳って公募した結果、女性からの応募が2割強あった。 ○平成26年度電子制御工学科及び物質化学工学科の教員公募では、「男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性限定採用」、機械工学科及び総合科学科では、「女性優先採用」を現在、公募手続き中である。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|--|---|---|
| <p>⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修について、研修講師への高等学校教員経験者や優れた取組を実践している者の活用や、ネットワークの活用などを図りつつ、企画・開催する。 また、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修や近隣大学等が実施するFDセミナー等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。</p> | <p>○FD活動を総括し、教員の資質向上及びキャリアパス形成を目的とした講演会・研修会の開催や、企業や福岡県教委等が主催する外部研修会への計画的派遣を行う。 ○平成27年度高専女子フォーラムの開催準備を進める。 ○研修会、講習会にTV会議システムを活用する。</p> | <p>○原子力人材育成事業において、TV会議システム利用遠隔授業が実施され、本校も積極的に利用している。 ○FD委員会において、前年度のFD活動を総括したうえで、今年度のFD講演会・研修会などをFD活動を策定し、担当する委員会等で計画的に実施中である。 ○福岡県教育委員会との連携の一環として、平成26年度は福岡県教育センター主催の専門研修に5名が受講希望した。（各研修への希望者多数につき、今年度は1名のみ決定） ○FD研修の一環として、男女共同参画に対する取組みに関連した講演会を開催した。 ○平成23年度から継続して、高専機構主催のオムロン「制御技術セミナー」へ計画的に教員・技術職員を派遣している。 ○平成26年度は、前期に応用コース2名を派遣し、後期に実践コース1名を派遣予定である。 ○高専機構からTV会議システムにより配信された「メンタルヘルス研修（セルフケア）」を受講した。 ○教員研究集会など、外部で実施される研修会・研究会に、教員の計画的な派遣を行っている。 ○TV会議について、外部との会議や、配信される研修会等に参加している。</p> |
| <p>⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。</p> | <p>○教員顕彰を引続き実施する。</p> | <p>○高専機構本部が実施する教員顕彰について、一般部門に教授1名、若手部門に准教授1名を現在、候補者として、それぞれ推薦している。 ○前年度推薦した准教授1名について、若手部門で「理事長表彰」に決定し、平成26年度全国高専教育フォーラムにて表彰され、受賞講演を行った。 ○前年度推薦した教授1名について、北九州高専功労者表彰を行った。</p> |
| <p>⑦ 60名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を充実するとともに、教員の国際学会への参加を促進する。</p> | <p>○FD活動の一環として、在外研究員や内地研究員等として派遣を実施するとともに、教員の国際学会への参加を促進する。</p> | <p>○平成26年度、在外研究員（在外A）として、英国ブルネル大学へ准教授1名を派遣中（3月末～2月末）である。 ○平成26年度、在外研究員（在外A）として、米国ニューヨーク州立大学へ准教授1名を派遣（7月～9月）した。 ○平成26年度、内地研究員（人事交流）として、宇部高専へ准教授1名を派遣中（4月～3月）である。 ○平成26年度、在外研究員（在外B）として、シンガポール・リパブリックポリテクニクへ准教授1名を派遣中（10月～3月）である。 ○平成27年度の在外研究員（在外A）に1名、内地研究員（人事交流）に1名の派遣が決定している。</p> |
| <p>（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム ①-1 モデルコアカリキュラムの導入を推進するため、全国高専教育フォーラムや高専各校において説明会等を実施する。 また、高専教育の特性を活かす、ICTを活用した教材や教育方法の開発を推進するとともに、開発した教材や教育方法を収集し、各高専において利活用を推進する。</p> | <p>（4）教育の質の向上および改善のためのシステム ○引続き、チェックリストの有効性ならびにモデルコアカリキュラムとの連動について検討する。 ○ICT機器を用いた教育環境整備を行う。</p> | <p>○専攻科改組により、創造工学実験においてiPadを活用する予定である。</p> |
| <p>①-2 「高専学生情報統合システム」整備に向けて、要件定義や基本設計を行い、調達に着手する。</p> | <p>○「高専学生情報統合システム」整備に向けて、地区代表校として要件定義や基本設計の検証を行う。</p> | <p>○6月10日：学生情報統合システム導入に係る九州沖縄ブロック会議を本校において開催し、システムの要件定義に係る問題点その他、各高専の意見・要望等を取りまとめ九州地区の意見として提出した。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|--|---|--|
| <p>② J A B E E認定プログラムの更新を行うとともに、教育の質の向上に努める。 また、在学中の資格取得について調査し、各高専に周知する。</p> | <p>○JABEE対応教育プログラムの点検・改善を継続して行い、平成28年度のJABEE継続審査受審に向けた検討を開始する。 ○学生の資格取得状況を調査し、資格取得支援策を検討する。</p> | <p>○2012年からのJABEE新基準に対応し、JABEEの各表を改訂した。 ○特例適用専攻科になる専攻科1年生の履修状況に問題がないか点検し、履修科目について指導した。 ○平成27年度からの新カリキュラムとJABEE基準との関係に問題がないか検討している。</p> |
| <p>③ サマースクールや国内留学等の高専の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、特色ある取組を各高専に周知する。</p> | <p>○サマースクールなど、学生の大学・高専との交流活動を調査し、促進を検討する。</p> | <p>○原子力人材育成事業にて、3月に富山高専へ学生をインターンシップ派遣する。次年度以降も、技科大、高専等へインターン派遣する予定である。</p> |
| <p>④ エンジニアリングデザイン教育等の各高専の優れた教育実践例や取組事例を、総合データベースを活用して収集・公表することで、各高専における教育方法の改善を促進する。</p> | <p>○エンジニアリングデザイン教育の推進を図るため、学内コンテスト実施の可能性を探る。</p> | <p>○ロボットコンテスト出場チームの学内発表会を実施した。今年はデザインコンペティション出場チームの発表会を実施した。</p> |
| <p>⑤ 高等専門学校機関別認証評価を計画的に進める。 また、各高専の教育の質を保つために、評価結果及び改善の取組事例について総合データベース「KOALA」で共有する。</p> | <p>○自己点検・自己評価を継続して実施する。 ○外部有識者で構成される運営協議会による学校活動等の諮問を受ける。</p> | <p>○自己点検・自己評価委員会において、各部署から提出された平成25年度年度計画の実績報告を基に、教育・研究、業務運営、財務内容改善に関する取り組みについて点検評価を行った。それらの評価結果と提言をまとめ校長に報告した。 ○自己点検・自己評価委員会では、現在、機関別認証評価での指摘事項に対する本校の対応について点検評価中である。 ○外部有識者による外部評価について、12月17日（水）に運営協議会の開催を予定している。</p> |
| <p>⑥ 各高専におけるインターンシップへの取り組みを産学官連携活動と組織的に連動することで、より効果的なインターンシップの実施を推進する。 また、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、各高専の教員を中心とする検討部会において、「共同教育」の標準例等教育方法の充実方策について検討を進めるとともに、取組事例を取りまとめ、周知する。</p> | <p>○引続き、インターンシップとともに地域企業との共同教育を実施する。 また、国から「環境未来都市」に選定された北九州市に立地する本校の特性を活かした教材や教育方法の開発等について検討する。 ○九州沖縄地区9高専連携事業として、企業講演会を実施し、海外で活躍する企業の情報等を学生へ提供する。</p> | <p>○専攻科特論において、低炭素化技術に関する先端講義を実施している。</p> |
| <p>⑦ 企業技術者や外部の専門家と協働した教育を実施するとともに、これらの教育のうち特色ある事例について各高専に周知する。</p> | <p>○企業人材を活用した教育体制の構築について引き続き検討する。</p> | <p>○専攻科特論において、地域企業と連携した共同教育を実施している。 ○北九州市内の企業と協定を締結し、授業実施に係る協力を得ているところである。</p> |
| <p>⑧ 理工系大学、とりわけ長岡・豊橋両技術科学大学との協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高専卒業生の継続教育などについて連携して推進する。また、長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して「三機関が連携・協働した教育改革」を推進する。</p> | <p>○近隣の理工系大学ならびに長岡・豊橋の両技術科学大学との連携を推進する。 ○教育研究における久留米高専、有明高専、宇部高専との連携について引き続き検討する。</p> | <p>○高専改革推進事業にて久留米高専、有明高専、宇部高専と連携し、合同特別研究発表会の実施について、1月下旬の実施に向けて具体的な検討を行っている。 ○呉・徳山・宇部・北九州の連携授業を実施予定である。 ○久留米高専と長岡技術科学大学とは、共同研究を実施中であり、高専-技科大連携による研究費が採択された。 ○近隣の理工系大学とは、広域大学知的財産アドバイザー派遣事業である「医歯食工連携による知的財産ネットワーク」に参加し、知財に関する情報交換を行っている。 ○国立高等専門学校教員グローバル人材育成力強化プログラム（豊橋技術科学大学）に参加している。 ○福岡県内及び宇部高専との研究連携を引き続き検討中である。地域外の高専及び大学については、科研費などで共同申請の実績ができた。</p> |

| <p align="center">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p align="center">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p align="center">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|---|--|--|
| <p>⑨ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門部会において、ICTを活用したアクティブラーニングの教育実践事例を調査し、各高専での導入を推進する。 また、ICT活用教育に必要な各高専の校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、現状調査、分析及び課題抽出、施策の検討、移行及び調達計画の検討を行い、具体的な整備計画を策定する。</p> | <p>○ICTを活用したアクティブラーニングの調査および勉強会を行う。 ○eラーニング・Webラーニングの充実を図り、長岡技術科学大学eラーニングe-HELPへの参加ならびにeラーニング教材開発を検討する。 ○WebClassを用いたe-learningを継続して推進する。 ○ネットワークのスイッチ類の更新を行い、認証ネットワークや、Ipv6対応への情報収集をする。 ○オープン教室に於いて利用されるクライアントPCの効率的な運用・管理の方法を調査する。 ○平成30年度次期校内ネットワークシステム更新に向けた調査、調整等に対応する。 ○引き続き無線LAN環境の維持管理を行う。 ○Ipad等のモバイル機器を用いた授業の支援方策を検討する。</p> | <p>○本科について、ALの調査を実施した。 ○全教員を対象とした「アクティブラーニングに関する研修会」を開催した。なお、この研修会は継続的に実施する計画である。 ○WebClassは平成26年11月で、登録数165コースで利用されている。 ○ネットワークの更新を平成26年10月に行い、新環境で運用を始めた。認証ネットワークや、Ipv6対応についてはテスト環境を構築した。 ○センサ管理下にあるパソコン教室8教室についてパソコン、サーバ等の環境調査を行った。うち、6教室において共通ドメインで管理し、効率的な管理を行っている。 ○ネットワークの調査について、対応するために現行のネットワーク環境について整理し、4月に回答書を作成した。 ○本年度は夏季休暇中は教室のAP停止し、夏季の温度上昇に伴う故障を回避した。寮の無線APの時間管理をフロントスイッチ側により管理できるようにした。 ○マルチメディア教室においてモバイル機器を整備し、利用できるように準備している。</p> |
| <p>(5) 学生支援・生活支援等 ① 各高専の学生支援を担当する教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、「学生支援・課外活動委員会」において、経済情勢等を踏まえたうえで、学生に対する就学支援・生活支援を推進する。</p> | <p>(5) 学生支援・生活支援等 ○授業料免除(本科4年生以上)を実施する。 ○保護者の失職や家計が急変する等、学業を継続することが困難となる学生を支援するため授業料免除を実施する。 ○卓越した学生に対する授業料の免除を実施する。 ○全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究会に教職員を参加させる。 ○精神科医との連携により学生相談体制の充実を図る。 ○学生のメンタルヘルスに関するアンケート調査を実施し、フォローアップを行う。 ○全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究会への参加を、相談室関係者以外の新任や若手の教員にも積極的に呼びかけ、本校の学生・特別支援力の底上げを図る。また事務側との連携を強化する意味から関係部署の幹部職員の参加も検討する。 ○学生相談室の開室を現行の4日/週から5日/週への全平日オープンを目指す。 ○身体・発達障がいの学生が、具体的にどのような個別支援を望んでいるのか担任等を通して聞き取り調査を行う。</p> | <p>○前期および後期の授業料免除(本科4年生以上)を実施した。 ○保護者の失職や家計が急変する等、学業を継続することが困難となる学生を支援するため授業料免除の募集を実施したが、希望者はいなかった。 ○前期および後期で卓越した学生に対する授業料の免除を実施した。 ○全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究会に教職員を参加させた。 ○精神科医との連携により学生相談体制の充実を図った。 ○学生のメンタルヘルスに関するアンケート調査を実施し、カウンセラー等によるフォローアップを行った。 ○全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究会への参加を、相談室関係者以外の新任や若手の教員にも積極的に呼びかけたが、今年度は相談室関係者のみの参加となった。また事務側との連携を強化する意味から関係部署の幹部職員の参加も検討したが、予算の関係から相談室関係者のみとなった。 ○学生相談室の開室を現行の4日/週から5日/週への全平日オープンを目指し、予算の確保を検討している。 ○身体・発達障がいの学生が、具体的にどのような個別支援を望んでいるのか担任等を通して聞き取り調査を行った。 ○全国メンタルヘルス研究会には、看護師以外に若手の男女各教員1名ずつが参加した。 ○今年度も「こころと体の健康調査」を実施し、要注意の学生に対してカウンセラーや支援助員の面談を行った。</p> |
| <p>② 各高専の寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を実施し、その結果を踏まえた整備計画の見直しを実施する。当該整備計画に基づき、整備を推進する。</p> | <p>○男子学生寄宿舎に学習室の設置を検討する。また、短期留学生受け入れのため、留学生棟のゲストルームやトイレ等の整備を検討する。 ○居室内部の床・壁の改修及び除湿器などの設置を計画する。</p> | <p>○3棟1階居室の床張替、壁紙補修、除湿機設置を行った。</p> |
| <p>③ 各高専に対して各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、高専機構HPに学生を対象とした奨学団体への情報を掲示する。 また、産業界等の支援による奨学金を適切に運用し、制度の充実を図る。</p> | <p>○天野工業技術研究所奨学金の奨学金に希望者を応募する。</p> | <p>○今年度1名の学生を推薦し、奨学金の受給が確定した。</p> |
| <p>④ 各高専における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制、また高い就職率を確保するための取組を調査し、各高専における取組状況を把握し、その事例を各高専に周知する。</p> | <p>○地元自治体のサポート事業も活用して、今年度も4年生と専攻科1年生を対象にビジネスマナーなどのセミナーを開催する。 ○入学時からの計画的なキャリア教育に向けた計画を検討する。 ○高専女子フォーラムを開催し、女子学生のキャリア形成に資する。 ○キャリア教育支援体制を整備する。</p> | <p>○県のサポートセンターから講師を派遣いただき、就職活動に必要な意識やマナーを身に付けることを目的に、4年生を対象にインターンシップ・ビジネスマナー講座を企画、開催した。併せて、今年度は女子学生対象に身だしなみ・メイクマナー講座を開催した。 ○就職、進学については、学科長、指導教員等が学生の指導や相談に対応している。 ○教育コーディネーターによる4年生対象のインターンシップ推進セミナーを6月に実施した。 ○企業から講師を招き、4年生対象の進路指導セミナーを12月に実施する。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|--|---|---|
| <p>⑤商船学科における就職率を上げるための取組状況を把握し、その事例を各商船高専に周知する。</p> | — | — |
| <p>(6) 教育環境の整備・活用 ①-1 施設・設備についての実態調査や施設管理に係るコスト等の調査を継続的に実施し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づいた整備計画の見直しを定期的に行う。 当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。 ①-2 施設の耐震化については、計画的に整備を推進する。</p> | <p>(6) 教育環境の整備・活用 ○施設マネジメントの充実を図り、施設・設備の老朽化状況等に対応した、細やかなメンテナンスを実施する。 ○専攻科の学生数に応じた予算、施設、設備の充実について引き続き検討する。 ○教育用電算システム・学内LANシステムを含め、引続き情報基盤の整備を行う。また、平成30年へ向けた新たな情報基盤整備計画を策定する。 ○現在、4号館と第2工場の空調設備が整備されていないため、冬場などは蒸気ボイラー設備を稼働しているが故障も多く、また環境対策の観点からエネルギー転換のため、平成26年度においては、4号館空調設備改修を計画する。残りの第2工場については、翌年度以降に整備計画を検討し、本校として、空調設備の整備を完了し、ボイラー設備の廃止を計画する。 ○図書館改修について、概算要求事業等に関する意見交換会を基に改修整備計画を策定する。 ○国のエネルギー対策、地球温暖化対策を踏まえ、省エネ対策の取り組みとして、夏季の省エネタイム・室内温度設定の徹底・クールビズの推進を実行する。</p> | <p>○各学科より、老朽化されたものについては、要望が出され、随時、メンテナンスを実施している。 ○4号館空調設備改修工事については、予算配分があり、年度末にしゅん工する予定である。第2工場については、施設・環境マネジメント委員会(10/29)で、平成27年度営繕要求を行うことを決定した。ボイラーについては、第2工場改修が完了次第、廃止する。 ○昨年との気候の関係も影響するが、夏季の省エネ対策の取り組みをした結果、電気及び空調ガスの7月から9月までの使用量が減少し、国のエネルギー対策及び地球温暖化対策に貢献している。(使用量 電気△32,472Kwh 空調ガス△7,996㎡)</p> |
| <p>①-3 PCB廃棄物については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法等に基づき、適切な保管に努めるとともに、計画的に処理を実施する。</p> | <p>○現在、実験機器でPCBを含む可能性のある物があり、現在調査中である。なお、PCBが含まれる場合、学内経費にて平成26年度中に処分出来るよう計画する。</p> | <p>○PCBの処分について、現在、処分出来るよう進めている。</p> |
| <p>② 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。</p> | <p>○引続き、学生の安全教育を実施する。 ○引続き、安全衛生管理のための講習会を実施する。</p> | <p>○例年、年度初めに学生の安全教育を実施し受講した上で、実習等を行っている。 ○メンタルヘルス研修(セルフケア)を実施した。</p> |
| <p>③ 男女共同参画に関する情報を適切に提供するとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進するための意識醸成等環境整備に努める。</p> | <p>○HPによる内外への情報提供を促進する。 ○大学等他機関と連携した取組の促進—講演会、セミナー等を実施する。 ○男女がともに働きやすい環境整備について検討する。</p> | <p>○学校行事や学生活動、国際交流や産学連携・地域連携活動など実施した。また、活動を取材し、写真と共に本校のHPに掲載した。 ○イベント情報に実施予定の学校行事やイベント等を掲載し、情報提供を行った。 ○各種コンテストや国際学会発表での受賞をHPで紹介している。</p> |
| <p>2 研究や社会連携に関する事項 ① 全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等の開催により、各高専における研究成果を発信する機会を設ける。また、各高専での科学研究費助成事業等の外部資金獲得に関する調査を実施し、好事例の共有と活用を行う。</p> | <p>2 研究や社会連携に関する事項 ○外部資金獲得策を継続検討する。 ○研究の活性化、論文数の増加に向けた環境の整備を引続き検討する。</p> | <p>○地域企業から寄附金などの外部資金を獲得している。 ○教員の学術論文数を増やすため、学内共同研究や大学との共同研究を推進している。 ○機構本部研究・産学連携推進室開催の科学研究費補助金の説明会を聴講した。 ○科研費獲得のための講演会の開催した。 ○外部補助団体からの案内を学内に周知している。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|--|--|---|
| <p>② 研究成果を発表する各種機会を活用し、高専の研究成果について広く社会に公表する。また、地域共同テクノセンターや産学官連携コーディネーター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングを推進する。</p> | <p>○産学連携を引き続き推進する。 ○近隣の大学等の研究機関との連携の推進を図る。 ○学科内あるいは学科を越えた教員同士による共同研究の推進を図る。</p> | <p>○産学連携推進については、引き続き推進中である。 ○広域大学知的財産アドバイザー派遣事業（医歯食工連携による知的財産ネットワーク）に参加した。 ○平成27年度（平成26年度申請）の科研費申請において、学科を越えた連携の実績がある。 ○地域企業との共同研究、北九州市立大学との研究交流（教員、学生）を活発化している。教員の学内共同研究を推進している。 ○北九州市立大学国際環境工学部エネルギー循環化学科・環境生命工学科と本校物質化学工学科との共同研究発表会（2回目）を開催した。 ○物質化学工学科、（一般科目）および九州工業大学との連携教育研究を継続して、連名の科学論文（英文、査読あり）を発表した。</p> |
| <p>③ 知的財産講習会の開催や知的財産コーディネーターを活用することで、各高専の研究成果の円滑な知的資産化及び活用に向けた取り組みを促進する。</p> | <p>○知的財産資産化に向けた具体的な取組を検討する。 ○研究紹介する教員総覧やシーズ集を発行する。</p> | <p>○共同研究等に始まる技術開発などから発生した知的財産について、積極的に権利化を行い、実施料収入の増大を進めている。 ○平成25年度末に研究者総覧（ダイジェスト版）を発行し、平成26年度も引き続き配布を行っている。共同研究・受託研究の際のきっかけとして利用している。</p> |
| <p>④ 産学官連携コーディネーターを活用し、高専のもつ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、「国立高専研究情報ポータル」や産学連携広報誌等を用いた情報発信を行う。</p> | <p>○地域共同テクノセンターの活性化を図る。 ○卒業生（同窓会）ネットワークを活用した連携を継続して実施する。</p> | <p>○地域共同テクノセンターの建物としては、100%稼働であるが、実施する企画などについて、引き続き、検討を要するところである。 ○共同研究などで卒業生が企業の研究者として申込みを行う事例が発生している。 ○地域共同テクノセンター内の「放射線安全教育室」に、最新の測定機を設置し、関連する公開講座を夏季に実施するとともに、近隣の「イノベーションギャラリー」「環境ミュージアム」での公開講座へ講師派遣を行った。</p> |
| <p>⑤ 公開講座（理科教育支援を含む）の参加者に対する満足度のアンケート調査を行うとともに、特色ある取組およびコンテンツについては総合データベースを活用して各高専に周知する。</p> | <p>○国立科学博物館「2014夏休みサイエンススクエア」に出展する。 ○アンケート調査等を行い、公開講座の充実を図る。 ○小・中学校に対する理科教育支援事業を引き続き推進する。 ○福岡県教育委員会との連携による支援事業を引き続き実施する。</p> | <p>○国立科学博物館「2014夏休みサイエンススクエア」に出展した。 ○「世界一行きたい科学広場in北九州」に出展した。 ○理科教育について、小学校からの要請に基づき、教員を派遣している。 ○引き続き、九州沖縄地区の科学技術教育支援ワーキングによる理科支援体制の構築と関係事業を実施している。</p> |
| <p>3 国際交流等に関する事項 ⑥-1 公私立の高専や長岡、豊橋両技術科学大学との連携を図りつつ、海外の教育機関との学術交流を推進し、学術交流協定に基づく交流活動を充実させる。また、海外交流のなかで特に優れた取組については、高専機構として包括的学術交流協定を締結し、国際交流活動の活性化を促す。 また、在外研究員制度を活用し、教員の学術交流協定校への派遣を積極的に推奨することで交流活動の活性化を促すとともに、長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して取り組む「三機関が連携・協働した教育改革」の一環として教員を海外の高等教育機関等に派遣し、教員のFD研修に取り組む。 さらに、国際協力機構の教育分野の案件への協力を進める。</p> | <p>3 国際交流等に関する事項 ○ISATE2014へ教員を派遣し、国際交流を推進する。 ○シンガポール・タイの高等教育機関との国際交流を継続する。 ○在外研究員の派遣を推進する。 ○北九州国際技術協力協会、JICAとの連携事業を推進する。 ○九州沖縄地区9高専連携事業における教員交流を推進する。</p> | <p>○ISATE2014へ3名教員を派遣した。 ○カセサート大学（タイ）から短期留学生4名を受入れた。 ○キングモンクット大学ラガバン校（タイ）から短期留学生4名を受入れた。 ○テマセクポリテク（シンガポール）から短期留学生2名を受入れた。 ○リパブリックポリテク（シンガポール）から短期留学生3名を受入れた。 ○ナンヤンポリテク（シンガポール）から短期留学生2名を受入れた。 ○平成26年度は、シンガポールとアメリカへ各1名在外研究員を派遣した。 ○平成27年度は、アメリカへ1名在外研究員を派遣予定である。 ○JICAの研修員8名を4月に受入れた。 ○カセサート大学（タイ）から教員1名を7月に受入れた。</p> |

| <p align="center">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p align="center">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p align="center">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|---|---|---|
| <p>⑥ー2 海外への留学を希望する学生を支援するため、日本学生支援機構の奨学金制度を積極的に活用するよう各高専に促す。また、全高専を対象に派遣学生を募集し、安全面に十分配慮した上で海外インターンシップを実施するとともに滞在期間を長くするなどの質的向上も目指す。</p> | <p>○交流協定締結大学・高校との国際交流を推進する。 ○学生の海外への派遣を企画・実施する。また、低学年を主体とした本校独自の語学研修プログラムの企画を実施する。</p> | <p>○ガジヤマダ大学（インドネシア）から短期留学生6名を受入れた。 ○ガジヤマダ大学（インドネシア）へ学生を派遣予定。 ○香港VTCから短期留学生を受入れ予定。 ○全北大学へ学生を派遣予定。 ○英語キャンプ（全国版）に学生1名が参加した。 ○本校企画の英国語学研修に学生8名が参加し、英語研修・異文化体験を行った。 ○本校企画の海外異文化体験研修に学生4名と引率教員2名が参加し、本校教員が在外研修で滞在しているブルネル大学（イギリス）にて語学研修、研究室訪問を行った。 ○国際交流協定校の全北大学（韓国）が開催した「FEELING KOREA PROGRAM」に学生2名が参加した。 ○長期工場見学として制御情報工学科4年生がシンガポールにて工場見学、シンガポール国立大学学生との交流を行った。 ○11月のISTS2014(台湾台北科技大学)へ、学生1名を派遣した。 ○9高専連携事業・海外インターンシップ（九電工台湾）に学生2名が参加した。</p> |
| <p>⑦ 全高専による外国人学生対象の3年次編入学試験を共同で実施し、日本学生支援機構及び国際協力機構が実施する国内外の外国人対象の留学フェア等を活用した広報活動を行うとともに、留学生の受入れに必要な環境整備や私費外国人留学生のための奨学金確保等の受入体制強化に向けた取組を推進する。 また、全国共同利用施設として設置した留学生交流促進センターを発展させ国際交流センターを設置し、留学生教育プログラムの企画を行うとともに留学生指導に関する研究会等の更なる充実を実施する。</p> | <p>○外国人学生対象の3年次編入学入試を実施する。 ○留学生の受け入れ体制の強化について検討する。 ○学生寮居室内部の床・壁の改修及び除湿器などの設置を計画する。</p> | <p>○学生寮3棟1階居室の床張替、壁紙補修、除湿機設置を行った。</p> |
| <p>⑧ 各地区において、外国人留学生に対する研修等を企画し、実施する。</p> | <p>○留学生にチューターを付け、意志疎通を図るための研修実施などを企画する。 ○留学生が考えているキャリア、日本人学生が考えているキャリアについて、グループディスカッションを計画し、双方を刺激する。</p> | <p>○留学生それぞれにチューターを配置し、生活面・学習面の支援を行っている。また、11月に留学生とチューターの交流研修会を実施し、学外での活動を通じて親睦・相互理解を深めた。</p> |
| <p>4 管理運営に関する事項 ①ー1 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</p> | <p>4 管理運営に関する事項 ○第3期中期計画の目的達成のため、より良い環境で教育及び研究が行われるよう予算委員会において、適正な予算配分を行う。 ○施設の有効活用、老朽化施設の整備・改善を図る。 ○男女共同参画の推進に向けた取組について検討を行い、適宜実施する。 ○高専機構監事監査・内部監査・情報セキュリティ監査における指導事項等のフォローアップを確実に実施する。</p> | <p>○予算委員会を2回（4/25 6/12）開催して、当初予算配分について検討し、主事会議（6/16）運営委員会（6/19）を経て適正な配分を行った。 ○毎年、施設利用計画を実施し、利用率を出し、低い部屋については、改善するようにしている。 ○男女共同参画の推進に向けた女性研究者研究交流会の参加や高専女子フォーラムへの参加、熊本高専との女子学生との交流会を実施した。</p> |
| <p>② 各地区校長会などにおいて高専の管理運営の在り方について検討を進めるとともに、主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修「管理職研修」を実施する。</p> | <p>○九州沖縄地区の校長・事務部長会議を開催する。 ○「管理職研修」への副校長あるいは校長補佐の参加を推進する。</p> | <p>○6月に九州沖縄地区校長・事務部長会議を本校において開催した。 ○高専機構本部が実施する教員研修（管理職研修）に副校長1名が参加した。（全体会議協議議題9件、全体会議報告事項2件、校長会議協議議題2件、事務部長会議協議議題1件、事務部長会議承合事項1件）</p> |
| <p>③ 更なる管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などを検討する。</p> | <p>○教職員の負担軽減策として、学生寮の管理体制および課外活動コーチ制などについて、拡大に向けて検討する。</p> | <p>○平成26年度から、女子寮の宿直を行う学生寮指導員を1名増員した。 ○課外活動の指導等に外部コーチおよび特命教授等を導入し、顧問教員の負担軽減を行っている。</p> |

| <p align="center">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p align="center">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p align="center">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|---|---|--|
| <p>④-1 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。</p> | <p>○納品検収マニュアルを遵守し、納品・検収体制の強化を図る。 ○地区会計事務担当者研修に積極的に参加し、スキルアップを図る。</p> | <p>○納品検収マニュアルを遵守し、発注者と検収者を分け、納品検収の際は、納品書に検収を行った日付及び押印をしている。 ○平成26年度九州地区国立学校会計事務研修（11/10～11/14）に参加し、スキルアップを図った。</p> |
| <p>④-2 各高専の教職員を対象とした階層別研修等においてコンプライアンス意識向上に関する研修を実施する。</p> | <p>○機構本部が実施する階層別研修や各種説明会、また、地区研修会に積極的に参加し、コンプライアンスに関する意識向上を図る。</p> | <p>○学務関係職員研修会、労務管理研修会、メンタルヘルス研修（セルフケア）、九州地区国立学校会計事務研修、九州地区国立大学法人等テーマ別研修、九州沖縄地区国立高専事務職員研修、九州地区国立大学法人等係長研修、人事事務担当者説明会（係長）等の研修に参加した。</p> |
| <p>⑤ 常勤監事の配置や監査体制の充実等、内部統制の充実・強化を推進する。また、時宜を踏まえた内部監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行うとともに、監事監査報告について中間報告を行う。また、各高専の相互監査を見直し、一層の強化を行う。</p> | <p>○これまでの高専相互監査結果を踏まえ、内部監査項目の見直し検討を行うとともに、情報共有し、より一層の校内監査体制の強化を図る。</p> | <p>○内部監査で重点項目を設け、業者6社からの売上傳票等と会計伝票の突合を行った。科研費に関しては、公的研究費に関する内部監査マニュアルのチェックリスト及びインタビューシートに基づき監査を行った。</p> |
| <p>⑥ 各高専での取り組み状況を定期的にフォローアップすることにより、公的研究費等に関する不正使用の再発防止策を確実に実施し、不適正経理の防止に努める。 また、必要に応じ本再発防止策の見直しを行う。</p> | <p>○公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の実施を確実に行う。 ○予算委員会において、不正経理の防止対策を検討する。</p> | <p>○公的研究費等に関する不正使用の再発防止の取組状況のフォローアップを確実に実施している。（研究費使用に関する意識改革・納品検収体制の充実・監査体制の強化・会計事務組織の充実・取引業者への対応）</p> |
| <p>⑦ 事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国、地方自治体、国立大学法人、一般社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。 また、職務に関して、特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰を行う。</p> | <p>○教職員の能力向上のために研修を実施し、学外研修に参加させる。 ○職務に関して特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰制度を活用する。</p> | <p>○福岡県教育センターが実施している専門研修に、平成26年度は、1名が受講した。 ○日本学生支援機構が実施する研修を積極的に受講した。</p> |
| <p>⑧ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。</p> | <p>○事務職員や技術職員の人事交流を計画する。</p> | <p>○平成26年度に他大学から事務職員3名受入れ、2名を派遣し、人事交流を行っている。</p> |
| <p>⑨ 各高専の校内ネットワークシステムシステムや高専統一の各種システムなどの情報基盤について、時宜を踏まえた情報セキュリティ対策の見直しを進める。 また、教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修を計画的に実施する。</p> | <p>○情報セキュリティ対策を含め、危機管理体制の整備を図る。 ○情報セキュリティポリシーの見直しに対応する。 ○教職員向けの情報セキュリティe-ラーニング研修を周知し、実施する。 ○情報担当者研修会や情報セキュリティ関連の研修会に積極的に参加する。</p> | <p>○情報セキュリティ対策として、LAN委員会を2回開催し、公開サーバ等についての運用手順書の策定を進めている。 ○機構の開催した研修会等に担当教職員が参加した。 ○学認連携Moodle講習サイト「りりんん姫」を利用し、情報セキュリティに関するe-ラーニング研修を実施し、131名が受講し、受講率は98.5%であった。</p> |
| <p>⑩ 各国立高等専門学校において、機構の中期計画および年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、各国立高等専門学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。</p> | <p>○これまでの本校での中期計画、年度計画の実施状況を踏まえ、平成26年度計画を策定し、本校の特性に応じた具体的な指標の検討を行う。</p> | <p>○平成26年度計画を策定し、学内へ周知及び機構本部に提出し、各項目について、具体的に実行・検討等を行っている。</p> |

| <p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画</p> | <p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告</p> |
|--|---|---|
| <p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。 また、各高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行うとともに、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。 随意契約の見直し計画については、フォローアップを適宜実施する。</p> | <p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○契約関係において、1社入札にならないよう仕様書について検討する。 ○より良い環境で教育及び研究が行われるよう予算委員会において、予算配分の検討を行う。</p> | <p>○予算委員会を2回（4/25、6/12）開催して、当初予算配分について検討し、主事会議（6/16）運営委員会（6/19）を経て適正な配分を行った。</p> |
| <p>III 予算（人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画。） 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。 2 予算 別紙1 3 収支計画 別紙2 4 資金計画 別紙3 5 総人件費については、政府の方針を踏まえ、厳しく見直しをするものとする。なお、職員の給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、当該給与水準について検証を行い、適正化に取り組むとともに、その検証結果や取組状況を公表する。</p> | <p>III 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画 ○第3期中期計画の目的達成のため、より良い環境で教育及び研究が行われるよう予算委員会において、めりはりのきいた予算配分を行う。</p> | <p>○予算委員会を2回（4/25、6/12）開催して、当初予算配分について検討し、主事会議（6/16）運営委員会（6/19）を経て適正な配分を行った。</p> |
| <p>IV 短期借入金の限度額 1 短期借入金の限度額 155億円 2 想定される理由 運営費交付金の受入の遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借入することが想定される。</p> | <p>IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 ○図書館改修について、概算要求事業等に関する意見交換会を基に改修整備計画を策定する。 ○国のエネルギー対策、地球温暖化対策を踏まえ、省エネ対策の取り組みとして、夏季の省エネタイム・室内温度設定の徹底・クールビズの推進を実行する。</p> | <p>○昨年との気候の関係も影響するが、夏季の省エネ対策の取り組みをした結果、電気及び空調ガスの7月から9月までの使用量が減少し、国のエネルギー対策及び地球温暖化対策に貢献している。（使用量 電気△32,472Kwh 空調ガス△7,996m³）</p> |
| <p>V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 以下の土地等の譲渡に向けた手続きを進める。 ・苫小牧工業高等専門学校錦岡宿舎団地（北海道苫小牧市明徳町四丁目327番37、236）4,492.10m² ・八戸工業高等専門学校中村団地（青森県八戸市大字田面木字中村60）5,889.43m² ・福島工業高等専門学校下平窪団地（福島県いわき市平下平窪字鍛冶内30）1,510.87m²、桜町団地（福島県いわき市桜町4-1）480.69m² ・長岡工業高等専門学校若草1丁目団地（新潟県長岡市 若草町1丁目5-12）276.36m² ・富山高等専門学校下堀団地（富山県富山市下堀字土大道割85番39）596.33m² ・石川工業高等専門学校横浜団地（石川県河北郡津幡町字横浜イ137）3,274.06m² ・沼津工業高等専門学校香貫団地（静岡県沼津市南本郷町14-27）288.19m² ・香川高等専門学校勅使町団地（香川県高松市勅使町355）5,606.00m² ・有明工業高等専門学校平井団地（熊本県荒尾市下井手字丸山768番）247.75m²、宮原団地（福岡県大牟田市宮原町1丁目270番）2,400.54m²、正山10団地（福岡県大牟田市正山町10番）292.76m²、正山71団地（福岡県大牟田市正山町71番2）284.39m² ・佐世保工業高等専門学校瀬戸越団地（長崎県佐世保市瀬戸越1丁目1945番地17,18,19,20,21,57）2,081.75m² ・都城工業高等専門学校年見団地（宮崎県都城市年見町34号7番）439.36m²</p> | <p style="text-align: center;">—</p> | <p style="text-align: center;">—</p> |

| 国立高等専門学校機構 平成26年度 年度計画 | 北九州工業高等専門学校 平成26年度 年度計画 | 北九州工業高等専門学校 平成26年度 実績報告 |
|--|---|---|
| VI 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生等の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。 | — | — |
| VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 施設・設備についての実態調査や施設管理に係るコスト等の調査を継続的に実施し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づいた整備計画の見直しを定期的に行う。 当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。 | — | — |
| 2 人事に関する計画 (1) 方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。 (2) 人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、全体として効率化を図り、常勤職員の抑制をしつつ、高専の学科構成並びに専攻科の在り方の見直しなどの高度化・再編・整備の方策の検討に応じて教職員配置の見直しを行う。 | 2 人事に関する計画 (1) 方針 ○教職員の他高専、大学等との人事交流を引き続き積極的に推進し、多様な人材育成を図り、資質の向上を図る。 (2) 人員に関する計画 ○教職員の職務能力の向上、効率化の施策について検討するとともに、高度化・再編に応じた教職員配置の検討を行う。 | ○教員の人事交流について、他高専へ1名派遣し、1名を受入れている。 ○職員の人事交流について、他大学へ、2名派遣し、3名を受入れている。 |